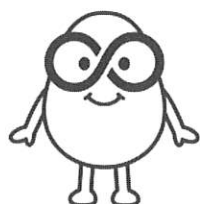


情報・通信業  
シノプス

sinops



株価(円)	2,300
時価総額(百万円)	13,869
予想PER(倍)	69.11
PBR(倍)	2.76

## フィスコソーシャルレポーターの声

・人手不足により、小売業の商品の自動発注・在庫管理ソフトが好調 (大野芳政)

## 業績表

※cは会社予想、fはフィスコ予想 (単位:百万円 EPSのみ円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EPS
17年12月期	838	150	150	108	21843.0
18年12月期	914	231	214	129	130.0
19年12月期 c	1,200	300	300	199	33.3
19年12月期 f	1,200	300	300	199	33.3
20年12月期 f	1,550	420	420	280	46.7

データ出典:フィスコWeb&アプリ (<https://web.fisco.jp/>)

※本セクションの株価現在値および投資指標は2019年8月13日終値(円)に基づく  
※チャートは週足

## 小売業などに自動発注ソフトを提供

「sinops」はスーパーを中心に74社への納入実績を有す

小売業向け需要予測型自動発注システム「sinops」が主力商品。「sinops」はエキスパート法によるAI機能を搭載した小売業向け需要予測型自動発注システム。ターゲットは年商400億円以上の小売事業者で、19年3月までにスーパーを中心に74社、4,921拠点への納入実績がある。

## 賞味期限の短い商品の自動発注に強み

類似ソフトはVINXやNECなども販売しているが、「sinops」は特に牛乳・卵・豆腐・袋麺などの日配品や、惣菜・パンなど、賞味期限が短く、かつ、週に何度かのチラシ特売により価格も頻繁に変わるカテゴリへの自動発注において強みを有す。例えば、ある牛乳を50円引きで特売すると何割販売数が増えるのかの予測はもちろん、代わりに日頃最もよく売れている牛乳がその影響を受け、何割販売数が減るのかというカニバリゼーション(共食い状態)を正確に予測する。

「sinops」は過去のデータから商品ごとに販売価格別の数量PI(1,000人あたりの販売数)を自動計算するのみならず、影響を受けるライバル商品の数量PIも合わせて計算し、必要に応じて発注数を抑制。欠品による機会ロスだけでなく、値引きロスや廃棄ロスをも合わせて改善する。

## 大手コンビニと実証実験を開始

現在、大手コンビニ3社のうち2社と実証実験を進めている。コンビニでは人手不足の環境下で、業務の効率化・自動化が待ったなしの状況となっており、正式に「sinops」が採用される可能性もあるだろう。小売業の人手不足や生産性改善に大きく寄与するシステムを提供し、事業の成長性は高いと思われる。今後、数年売上高は年率20~30%で拡大し、営業利益率は25~30%程度で推移しよう。今後12カ月の株価は、20年12月期予想EPS46.7円のPER30~60倍となる1,400~2,800円程度で推移か。